青木の風

生きる　創る　そして輝く

学校だより３月号

令和６年２月２９日

横浜市立青木小学校

６年間の成長を　子どもたちの姿から感じて

校長　後明　好美

１年が経つのはあっという間で、明日には３月になります。日々子どもたちと接していると、彼らの成長や素晴らしさを感じることが多くあります。

体験・経験の　低学年― 豊かな経験から紡がれる　ことば ―

生活科の学習で、冬の風と思いっきり遊んだ子どもたちの中から、**「風と肩組みした！」**という表現が飛び出してきたと、担任から聞きました。寒さも忘れるほどたくさん、没頭して風遊びをしたことで、「風ととっても仲良しになれた」と感じたのでしょう。それを「肩組み」に例えた感性が光っています。

以前本校に勤務していた頃のことで恐縮ですが、葉が鮮やかに色づいた秋の校庭の木々を見上げながら、当時のクラスの子どもたちに「秋だねえ。葉っぱがきれいで素敵だね。」と話しかけました。すると子どもの一人が、「うん。でも、**もっと素敵なことはね、『それが落ちてきてくれる』ってこと！**」と返しました。落ち葉を、「美しいものが自分たちの手元まで落ちてきてくれる」ととらえているこの子の素晴らしさに、心打たれました。青木の子どもたちの素晴らしい姿はたくさんありますが、この子のことも忘れることができません。

自ら楽しむ　中学年　― 主体的に関わること ―

冬の朝、門に立って子どもたちを迎えていた私に、中学年の子が「昨日は全然眠れなかった。」と話してきました。体調が悪かったのではと心配になり、「どうしたの？」と尋ねると、「だって、**今日のスケート教室が楽しみすぎて・・・。**」との答え。ほっとして「もし具合が悪くなったら保健室に行くんだよ。」と声をかけつつ、眠れないほど学校行事を楽しみにしてくれるこの子に、ありがたい思いがわいてきました。

そして最高学年　― 自らを俯瞰して ―

２月19日に登校班編制があり、班長が５年生以下の子どもたちに代わりました。その翌日、登校してきた６年生が校内には入らずに門に佇み、他の班が登校してくる様子をじっと見守っていました。そして、**「今までと見え方が違うな。」**とつぶやきました。これまで６年間、そして今年はリーダーとして歩いてきた通学路。その役割を下級生に譲ったときに、通学の様子がこれまでとは違ったものに見えたのでしょう。彼がこれまでの自分の成長や小学校生活までをも振り返っているのではないかとも思え、６年生らしいその横顔を見ながら「この子たちももうすぐ卒業だ。」と少し寂しさを感じました。

学校の中で子どもたちは多くのことを感じ、その経験を自らの内に蓄積して成長していくのだと思います。生活科等で出会った事象に心を震わせ、自らが獲得している豊かな言語で表現し、中学年では行事や学習に主体的に取り組むことで自分から物事を楽しいものにできることを実感し、俯瞰して自分を見つめることのできる高学年へとなっていくのだと、子どもたちの姿を見ていて思いました。**小学校の６年間での子どもたちの成長は、実に素晴らしいものがある**ということも改めて感じました。

３月は、学校で大切にしている行事、卒業式があります。令和５年度、150周年をリードし続けてきてくれた**本校自慢の６年生たちの輝かしい旅立ち**を、在校生そして全職員でしっかり見届けたいと思います。

３月もどうぞよろしくお願い申し上げます。